

— NO204 1月号

FOREST NEWS

未来を守る木を植える
未来を育てる木を植える



2025年度 指標

- ①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
- ②国内において累計500本の植樹活動
- ③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
- ④セミナーを通じて植樹活動の啓発
- ⑤他団体との連携

NPO法人 地球の緑を守る会

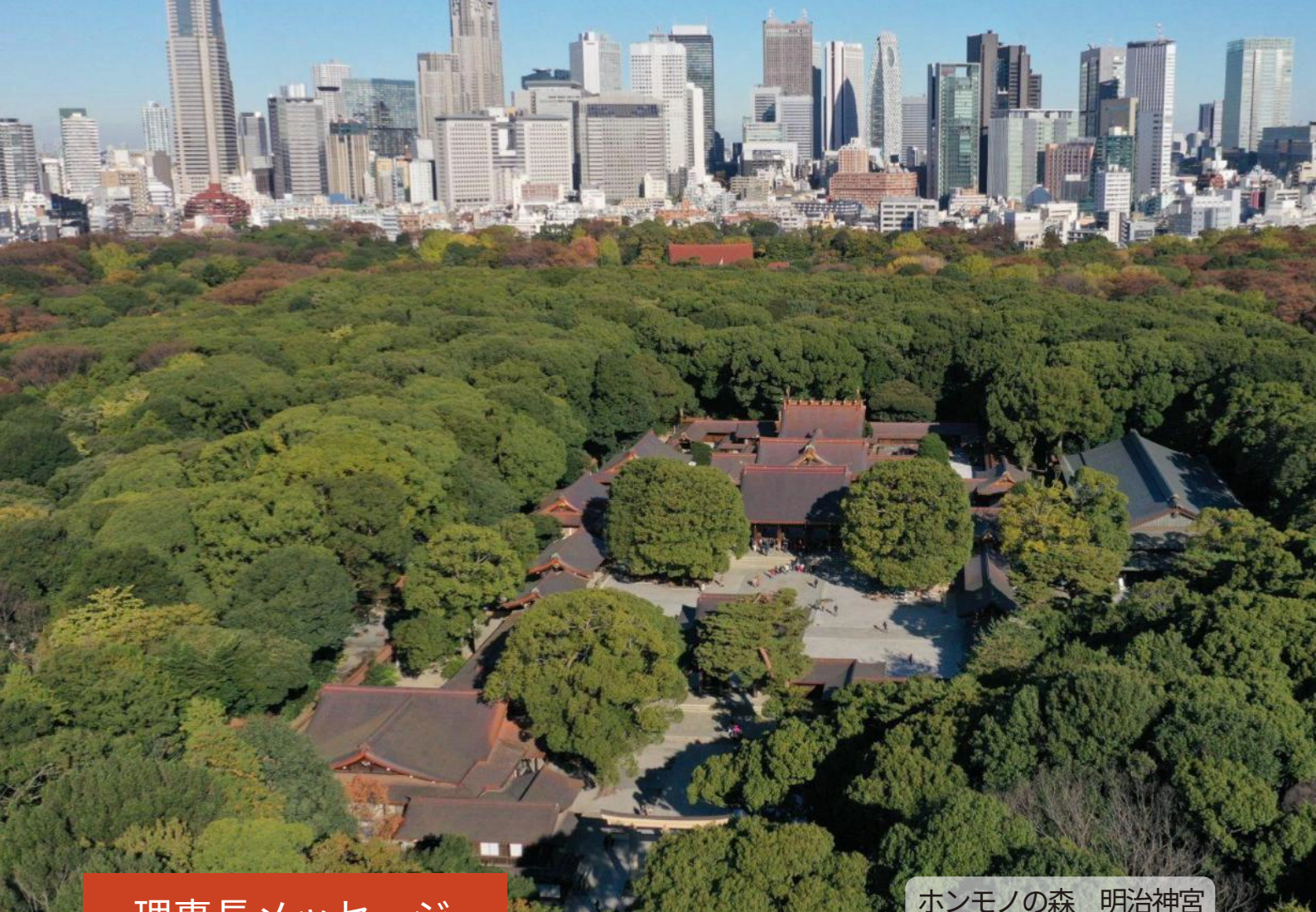
発行人 藤生輝彦

〒121-0072東京都足立区保塚町1-6

Tel:03-6783-4707

Fax:03-6783-5595

ホームページ <http://midori.mond.jp/>



理事長メッセージ

ホンモノの森 明治神宮

“ホンモノの森”による生態系再生を目指す1年に！

明治以降の日本は急速に都市化が進み、各地から“ホンモノの森”が消えていきました。伐採をまぬかれたのは神社やお寺の境内などに手つかずの状態に残っていたもので、日本全体のわずか0.06%でした。したがって今の人たちは“ホンモノの森”を見たことがないのです。（数千年前から西日本を覆っていたシイノキ、タブノキ、カシノキを主木とした常緑広葉樹林、関東以北を覆っていたブナ、ミズナラ、カエデの類の落葉広葉樹林、これらを植物生態学の立場からわかりやすく“ホンモノの森”と呼び、スギ、ヒノキ、マツなどの人工林を“ニセモノの森”と呼んでいます）人間活動によって破壊される前の自然林は、スギ花粉のように人間に危害を加えるということはありません。逆に、人間をはじめ生きものの命を育んでくれるのが“ホンモノの森”の機能です。

“ホンモノ”と“ニセモノ”の区別は、前者は「厳しい環境に耐えて長持ちする」後者はどんなに美しく見えても、地震や津波、台風、地球温暖化などの自然災害に対して「すぐダメになり長持ちしない」です。したがって、一番大切な「いのち・健康・生活」を守るには、都市化によって失われた“ホンモノ”をとりもどすことです。不思議に思うかも知れませんが、“ホンモノの森”の木の種類はその土地ごとに昔から決まっています。何千年、何万年という時間をかけてできあがった安定した森の木の種類を特定し、それらの苗を混植・密植することで、その場所に20～30年で“ホンモノの森”を作り出すことができます。誰にでもできるこの画期的森づくりを、開発者・宮脇昭博士（1928～2021）の名を冠して「宮脇方式」と呼んでいます。

2025年 年間500本の苗木を植樹するための活動計画

年間500本の苗木を植樹するための活動計画は、次の3つのフェーズに分けられます。それぞれのフェーズでは、具体的な取り組みと目標が設定されています。

フェーズ1: 計画と準備

1：候補地の選定

混植密植の植樹に最適な場所を特定します。この段階で地元の友好団体と協力し、現地の自然環境や生態系に関する調査を行います。

2：苗木の確保

持続可能な植樹活動のために安定した苗木供給の体制を確立します。苗木生産者との連携や、新たな供給源の開拓が重要です。

3：パートナーシップの構築

継続した活動を支えるために、現地の友好団体、企業、教育機関などとの協力関係を築きます。これにより、長期的な支援体制を確保します。

フェーズ2: 実施

1：植樹活動の開始

現地の友好団体の会員やボランティアが参加し、混植密植の手法に基づいて苗木を植えます。専門家の指導のもと、適切な植樹方法と管理方法が実践されます。

2：教育活動

植樹活動と並行して、生態系保全の重要性を理解するための教育活動を行います。これにより、参加者の環境意識を高め、持続可能な活動への理解を深めます。

3：モニタリング

植樹後の苗木の成長状況や生態系の変化を定期的にモニタリングします。これにより、植樹の効果を評価し、必要に応じて追加の管理措置を講じます。

フェーズ3: 継続と発展

1：定期的な活動

年に2回の育樹活動を継続して行い、生態系の再生と保全を促進します。これにより、長期的な環境保全の効果を最大化します。

2：地域社会との連携強化

地元の住民や団体との協力関係をさらに深め、地域社会全体での環境保全活動を推進します。これにより、持続可能な環境保全の意識を地域全体に広げます。

3：成果の共有と発展

植樹活動の成果や学びを広く共有し、他地域への展開や新たな活動の発展を目指します。これにより、より多くの地域での生態系保全活動が促進されます。

現在の進捗報告

フェーズ1 1：候補地の選定

- ①千葉県富津市 M様の持山
- ②岩手県一関市 W様の企業敷地内
- ③岩手県一関市 S様の持山
- ④石川県七尾市 H様の持山

現在、上記の候補地が挙がっており、具体的な計画の策定に進んでおります。それぞれの地域において、最適な植樹場所の選定を行っています。

フェーズ1 2：苗木の確保

苗木の供給に関しては現在、各支部において苗木を育てると共に、苗木を提供していただく団体との交渉を進めています。さらに、追加の苗木が必要な場合に備えて購入の検討、資金計画を立てています。

このフェーズ1の進捗により、計画と準備の段階が着実に進んでいることを確認できました。次のステップとして、具体的な植樹計画の最終調整と、苗木供給体制の確立に向けた最終調整を進めてまいります。

ドングリの播き方教室を開きました 船橋支部

ドングリの撒き方を実践で教える

日時：1/18(土)10:30～

場所：長津川親水公園

千葉近隣に植樹する事を想定して、ドングリだけでなく数種類の常緑樹の種を植えました。どんぐりから苗木を育てるために、カップ麺容器を再利用し、底に穴をあけて通気性を確保します。容器の底に小石を敷き、一般的な土を使用。どんぐりは尖った部分を下に向けて植え、水やりと明るい場所での管理がポイントです。数週間で発芽し、成長を楽しむことができます。ベランダでも手軽に育てられ、特別な肥料も不要です。



上右2箱：アラカシ 上左2箱：マテバシイ
下箱右から クロガネモチ。天沼公園の常緑樹
黒:クスノキ 赤:アオキ 茶:ツバキ 馬酔木。

船橋市弁天公園では、混植密植の植樹を一年を通して体験できる企画を行っています。(ふれあいの森公園を育む会主催) この企画に参加することで、自然との触れ合いや森林の保全について学ぶことができます。興味がある方は、お問い合わせください(船橋支部 河原)



活動の様子

24年夏に行ったボランティアに参加してくれた中学生の感想文が船橋フェイス5階に展示されていました。



今回2回目となる船橋夏のボランティア体験で、地球の緑を守る会船橋支部さんにお世話になりました。選んだ理由は、近年地球温暖化によって年々暑くなっていく夏を止めるためには、昔のように多くの木々が生い茂る世界にすることが最適だと考え、その詳しい方法を知ることができると思い選びました。

今回の体験で最も印象に残っていることは、木が増えることで自然災害に対抗することができることと知ったことです。自分たちのゴミから作り上げた小山の上に大小様々な苗木を植えることで、20～30年後には津波に対抗できるほどの巨大な山に変貌を遂げると言われた際には、自然の偉大さについて改めて驚かされました。説明の後には実際に自分で苗木を作る体験を行いました。苗木を作る工程は、腐葉土と肥料をかき混ぜ土を作り、それを型に半分入れて苗木を入れ、また土をかぶせるといったシンプルな方法であつという間に終わりました。初めてでしたが非常に簡単でした。

今回の体験で、木々は地球温暖化を止めるだけでなく、私たちの命も助けてくれることを知りました。このことから、一人一人が毎年一つ苗木を作るだけでも自然や自分たちに大きな影響を与えることができると考え、これからも緑を増やすお手伝いをしていきたいです。